



Contents

学生の声を反映した授業改善を各学部で推進

- Case1 独自の工夫で充実した授業に
医学部 オンラインでも議論できるPBLを構築 2
- Case2 CHAmmitの成果を生かした授業改善
国際関係学部 オンライン留学や学生交流会の設定を検討 2
理工学部 ハード・ソフト両面から学びの環境を整備 3

連載 部科校における学習支援等の事例紹介 4

第11回 **【商学部】** オンライン授業受講用の教室開放

連載 授業改善のためのティーチングティップスの収集と情報提供

第12回 **薬学部**における共通ルーブリックを活用した通年教育の取組

COVER PHOTO

「歯の解剖学実習」の様子。歯学部第2学年の同実習では、歯の観察・スケッチを主に行うほか、3Dプリンタ製模型歯の活用、遠隔授業では歯のCTスキャン画像、3D立体視映像などの教材も利用しながら歯の形態学的な特徴を学習します。
 (担当教員：歯学部 山崎洋介准教授)

学生の声を反映した授業改善を各学部で推進

本学では、学生の声を反映した授業改善を各学部等で積極的に推進しています。今回は、オンラインによるPBL学習のしくみを構築した医学部と、CHAmmiTを契機に授業改善を行う国際関係学部、理工学部の取組を紹介します。

Case 1 独自の工夫で充実した授業に

医学部 オンラインでも議論できるPBL*を構築

医学部では、学生の声を反映しオンラインによる少人数PBLを実施するなど独自の取組を行っています。

コロナ禍でも、社会で求められる 医療人を育成するために授業改善を推進

医学教育センターは医学部の授業改善の中心的な役割を担う部署で、4人の教員が在籍しています。医学部では、伝統的に「学生教職員懇談会」などを通じて、学生の声を反映してきました。

令和2年度は、コロナ禍でも社会で求められる医療人を育成するために、オンラインでいかに質の高い授業を学生に届けるかということに注力してきました。前期から一斉講義型のオンライン授業を実施しましたが、学生から「少人数でのグループディスカッションをしたい」という声が上がリ、後期からは一部の科目でZoomのブレイクアウトルーム機能を用いた双方向授業を取り入れました。

特にその形式が向いているのが、3年次から4年次に行われる「PBL テュートリアル」

という学習法を取り入れている授業です。学生が臨床推論を理解するために、患者のシナリオから鑑別疾患や病態を考える内容です。

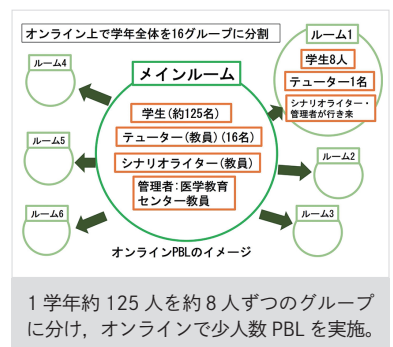
議論するだけでなく、Google スライドを活用した画像の閲覧

と意見交換も実施。複数人の書き込みがリアルタイムで共有できるため、オンラインでも充実したPBLが可能になりました。そうした授業を週2回実施後、症例のシナリオを作成した教員による解説授業を行うことを続けています。

医学教育センターでは、オンラインでPBLを行う学年には毎週、他学年も年数回のアンケートを実施し、授業運営や改善に生かしています。

メンタルケアの観点からも、学生同士で学べる場の重要性を感じる一方、Wi-Fi環境などオンラインならではの課題もあります。しかし授業形式は確立できてきているので、今後は学習効果も分析していきたいと考えています。

(医学部准教授 阿部百合子)



医学部の授業改善のポイント

1 アンケート結果を授業改善に生かす

授業のオンライン化にあたり、全学生にインターネット環境などを調査。授業開始後も、定期的にアンケートの回答を受けて授業改善を実施。その経緯も医学教育センターのホームページに公表している。



2 ヘルプデスクを設置し、学生と教員を支援

学生や教員のオンライン授業に関する技術的な困りごとに対応するヘルプデスクを設置。医学教育センターや医学部教務課でも相談を受け付け、誰一人取り残さないようにした。

3 お薦めの授業動画やアプリをホームページで共有

学生アンケートの結果、好評だった授業を動画で紹介。また、提出した課題が教員に届いたかをオンラインで確認したいという学生の声を聞き、提出状況の確認ができるアプリなども紹介している。

* Problem-based learning (問題基盤型学習)

Case 2 CHAmmiT の成果を生かした授業改善

CHAmmiT の学部提案書をもとに、学生との話し合いを実施

学生・教員・職員が参加した CHAmmiT での成果から、授業や授業環境改善に取り組んだ 2 学部の事例を紹介します。

国際関係学部

学生からオンライン海外留学や、オンライン授業での相談受付に関する要望が出される

国際関係学部では、学部提案書を基に、教職員と学生による話し合いを行い、改善報告書を作成しました。

学生から教職員側への要望としてまず挙げたのは、オンライン留学の実施です。コロナ禍の影響で、本学部の最大の特徴である留学プログラムの実施が見送られているため、学生から単位認定を伴うオンライン留学を実施してほしいという意見が出ました。本学部では、提携する大学とのオンライン留学プログラムを学部のポータルサイトで掲載していることを紹介。今後、単位認定を伴う、中・長期留学プログラム実施も検討していくことを伝えました。そのほか、学生同士のオンラインサロン（交流会）の実施や他学部との相互

履修の活発化が要望として挙げられ、今後検討予定です。

また、学生からオンライン授業におけるオフィスアワーの整備についても強い要望がありました。教職員は、いつでもメールで問い合わせ可能だと考えていましたが、メールアドレスの記載不備などの理由で質問ができないことを知り、教職員と学生の認識にずれが生じていることがわかりました。質問先の確認、事前予約制によるオンラインでの質問対応を行うことも検討していきたいと考えています。

(国際関係学部国際総合政策学科 笠原孝太助教)

学生の声

FD 活動は、極めて有意義な活動であると思いました。学部提案書を基にした教職員の方との話し合いは、少し時間が短く、全ての提案に対する改善策を十分に出し合えなかったのが残念でした。ただ、この活動で私たちが話し合った改善案が、実際に何らかの形で、本学に生かされることを楽しみにしています。 国際関係学部国際教養学科 2年 西村憲人さん

理工学部

コロナ禍における学修の不安を解決するよう学び合いの場を設け、学生の学習意欲を支援

理工学部では、学部提案書を基に、コロナ禍のため学科ごとに学生と教職員による対話を実施し、改善に取り組んでいます。まず、ハード面では、教室にカメラやマイクを新たに設置し、双方向授業の環境を整えました。次にソフト面では、学生から学び合いの場を増やしてほしいという声が出されました。本学科では、ハイブリッド形式の演習授業で開始前後の時間を活用し、学生同士の交流を深めてもらっています。

そのほか、コロナ禍では、「修得した知識や技術は社会で通用するのか、分からず不安」という課題が挙げられました。学生の不安を理解し、授業の中で社会の求めるレベルと授業内容の関係を具体的に説明する必要があると感じました。

また、コロナ禍で学期末の試験にレポート試験が課されることが多くなっていますが、努力が点数として現れる試験を求めている学生もいることがわかりました。

今回、学生と教職員が、一緒に考えることでお互いの苦労や課題を共有できました。学生の不安・悩みを正確に把握することは、課題解決の第一歩だと思います。今後、CHAmmiT の成果を受けて行われた工夫に関しては、「CHAmmiT の成果による」と明示するよう検討します。

(理工学部まちづくり工学科 田中賢教授)

学生の声

今回の話し合いで、他の学生の皆さんも、私と同じように学修に関する不安を抱えていることが分かり、少し安心しました。また、提案に対してすぐに改善ができない部分も、教職員の方から現状についての説明を頂き、大学や教職員の方の苦労も理解できました。お互いの「気づき」が重要だと感じました。 理工学部まちづくり工学科 4年 小林飛翔瑠さん

令和3年度学生FD CHAmmiT 学部提案書に基づく改善報告書

学部	改善項目	実施内容
国際関係学部	オンライン授業の実施	提携する大学とのオンライン授業プログラムの実施について、教職員と学生による話し合いを行い、改善報告書を作成しました。
理工学部	学び合いの場の設け	ハイブリッド形式の演習授業で開始前後の時間を活用し、学生同士の交流を深めてもらっています。

CHAmmiT 学部提案書に基づく改善報告書。各学部のホームページに掲載されている。

令和3年度日本大学 学生 FD CHAmmiT 開催

開催日時 令和3年11月28日(日) 13時~17時

申込方法や実施内容の詳細は FD 推進センターの HP をご参照ください。

<http://www.nihon-u.ac.jp/fd-center/>



連載

部科校における学習支援等の事例紹介

第11回 [商学部] オンライン授業受講用の教室開放

商学部の学習支援等の事例として、コロナ禍におけるオンライン授業受講用の教室開放を紹介します。

商学部では、令和2年度中にWi-Fi環境の拡充などキャンパス内における通信環境の充実を進めました。令和3年度からは、キャンパス内の3教室(300人規模)をオンライン授業受講用に開放しています。

商学部には遠方から通学する学生が多く、一日に複数の講義がある場合、全ての講義が終わるまでキャンパスにいる必要があります。

しかし、Wi-Fi環境の制約上、これまではオンライン授業受講用の教

室が確保できなかったため、学生の学習に支障をきたしており、早急な解決が求められていました。

そこで、3つの教室を開放することにより、対面授業の前後に、オンライン授業が入ってもスムーズに受講できるような環境を整えることができました。

学生からは「これまでは曜日毎に対面授業かオンライン授業に固めていた。その必要がなくなり、授業の予定を組みやすくなった」との意見が寄せられ、特に意欲的な学生の学習意欲を維持するのに役立っています。教職員からも、学生への指導が

しやすくなったとの声が届いています。例えば、教員が対面授業を実施しやすくなり、学生が来学することで、ゼミナールの空き時間に図書館を利用する機会が回復しました。また、図書館を利用することで、学生が密にならない学習スペースを活用し、予習・復習に充てることができます。

今回の取組により、活気あるキャンパスを維持することの重要性が明らかになりました。今後も学生の声を反映させた学習支援の充実に努めてまいります。

(商学部教授 松原聖)

連載

授業改善のための
ティーチングティップスの収集と情報提供

第12回 薬学部における共通ルーブリックを活用した通年教育の取組

薬学部の薬学教育モデルコアカリキュラムでは“学習基盤型教育(outcome-based education)”の考え方が取り入れられ、“薬剤師に求められる基本的な資質”が明示されています。育成を目指す資質として、医療の担い手として人の命と健康な生活を守る“倫理観”や患者・生活者・多職種から情報を収集・提供するための“コミュニケーション能力”などが挙げられています。

それらを念頭において薬学部では、医療倫理教育の学修およびコ

ミュニケーション能力醸成を目的とした通年教育を実施しています。

加えて、その成長度を確認するために薬学部では2020年より共通のルーブリックの運用を開始しました。ルーブリックは各学年での対象科目の授業が全て終了した後、学生に自己評価を行ってもらい、評価が終了したルーブリックはLMS(Learning Management System)内のポートフォリオに移行し、いつでも学生が成長過程を確認できるようにしています。また、評価は全て

の対象科目で可能とするために「受容と共感」、「自律性」、「表現力」、「学ぶ姿勢」の4つの観点のみとし、5段階で評価を行っています。

このルーブリックは、運用が開始されたばかりのため、学生の評価を検証する段階には至っていませんが、評価に対する質問などがないことから表現に問題はないと考えられます。今後は他の通年教育科目においてもルーブリックを活用し、教育効果の向上を図っていきたいと思います。(薬学部教授 渡邊文之)

※本ニューズレターに記載した資格・学年等は、令和3(2021)年9月現在のものです。

日本大学 FD NEWSLETTER 第19号

発行日: 令和3(2021)年9月1日[年2回発行]

発行所: 日本大学FD推進センター センター長 青木義男
〒102-8275 東京都千代田区九段南4-8-24 電話:03-5275-8314 FAX:03-5275-8315
e-mail:adm.aca.eps@nihon-u.ac.jp http://www.nihon-u.ac.jp/fd-center/

所管部署: 日本大学 本部 学務部学務課 企画・編集: 日本大学全学FD委員会教育情報マネジメントワーキンググループ

「日本大学 FD NEWSLETTER」に関する御意見や御感想などがありましたら、学務部学務課(adm.aca.eps@nihon-u.ac.jp)へお寄せください。
本ニューズレターに掲載した文章、写真等の無断転載・複製を禁じます。 Copyright(C)Nihon University 2021 All Rights Reserved.

